



<http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1806nagahamakintarou.pdf>

湖北伊吹山西麓のたたら郷 伊吹 & 桃太郎伝承の残る長浜市西黒田地区を訪ねました。



湖岸沿いに広がる長浜市。なんで 湖岸の長浜に伊吹山のたたらの関連地金太郎の伝承があるのだ。

私の頭では長浜は米原の北。そんなに伊吹山と長浜は近いのか？でも、今回しっかり地図を眺めてわかりました。

長浜市の東の境界は臥竜山の丘が南北に走り、その丘の後ろに伊吹山がそびえる米原市伊吹の里がある。

湖岸の長浜の街の背後に、南北に長く臥竜山の丘が寝そべり、その後ろに伊吹山がそびえる伊吹の里だと初めて理解できました。長浜の街からは伊吹山の山体は見えないが、いつも頭をのぞかせ、長浜と伊吹の里は昔も今も密接につながっていると初めて理解。長浜と米原市の伊吹の里との間に寝そべる臥竜山の山裾 長浜市の南部旧坂田郡長浜市西黒田地区が桃太郎の伝承地。そして古代この伊吹山を背に北陸から湖北全体に勢力を誇ったのが、古代鉄の豪族息長氏。金太郎は息長氏一族の鍛冶屋の子として 伊吹山山麓この臥竜山が寝そべる長浜市西黒田の郷で生まれ、周囲の丘を遊び場にして たくましく育ったという。

■ 伊吹山の山麓 長浜市西黒田に残る坂田の金時伝承の概要 ■

滋賀銀行 季刊情報文化誌「湖」2015 秋号 「“金太郎” 坂田の金時は旧坂田郡の人だった？」より

https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

伊吹山の山麓 長浜市西黒田に残る坂田の金時伝承

滋賀銀行 季刊情報文化誌「湖」2015秋号 “金太郎” 坂田の金時は旧坂田郡の人だった？
https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf



平安時代中期 近江国坂田郡布施郷(現長浜市西黒田布施町)に本拠地を持つ古代豪族息長氏一族に生まれた。
布施町に隣り合う小一条町に「番所・ぱんふところ」の地名が残るが、これは「乳母が懐」と言われ、この辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。今もお地蔵さんが祀られ、授乳地蔵として信仰を集めている。
金太郎は熊岡山(熊岡神社)や足柄山(列見寺山)で熊と相撲を取ったり、舟崎の鯉ヶ池で鯉に乗ったり、海童ぶりを発揮。
青年になるとこの地で盛んだった鍛冶の仕事に就いた。
金太郎のトレードマーク「赤い肌」「鉞」「金の字の腹掛け」は鍛冶の作業を表すという。
そして、20歳となった金太郎に転機が訪れる。天延4年(976)、旧暦3月21日、上総守の任期を終え、黒田海道を上京中の源頼光が足柄山にさしかかったとき、金太郎は頼光の目にとまり家来となった。
上京後、金太郎は名を坂田金時と改め、頼光のもと様々な手柄をたててゆく。
正暦5年(994)、金太郎が住んでいた村の人々を苦しめている伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)をついに退治し、渡辺綱、卜部季武、碓井貞光とともに頼光の四天王と称されるまでになる。(大江山・伊吹山の鬼退治伝承の一つ)

なお、坂田の金時の鬼退治伝承の多くは、大江山伝説の形をとっているが、伊吹山山麓では、上記のごとく伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)退治の形で伝承されている

また、この布施町から小一条町にかけては「タタレン」「穴伏」「金神山」「焼尾」といったたたら製鉄に関係した地名が残り、

鎌倉時代 布施町鍛冶屋場庄司には名剣を打つ鍛冶屋が軒を連ねていたという。



■ 琵琶湖取り囲む山々の山麓は たたら製鉄を育んだ和鉄の故郷 古代の鉄の王国「近江」 ■

琵琶湖周辺の山々には鉄鉱石があり、古代からその山麓には点々と製鉄遺跡や製鉄関連 そして、湖北から北陸にかけては古代の鉄の豪族息長氏の本拠地。そんな湖北の和鉄の故郷のひとつ伊吹山山麓 旧坂田郡西黒田は「坂田の金時・金太郎」の伝承地 たたらに里で生まれ、周辺の山で育った金太郎 その象徴が赤い肌・鉞・丸金の腹掛けだという。

金太郎の伝承地はいくつかあるが、「坂田」の地での伝承を持つのはこの伊吹山麓のみという。金太郎伝承が伊吹山山麓のたたらに里にあると初めて知りました。

久しぶりに知る各地に残る「桃太郎」「羽衣」

ほかの昔話とたたらとの関係。湖北へは何度も出かけ、伊吹山登山や湖岸沿いの長浜へは何度も行ったことあり、また関ヶ原を東に越えた美濃側の製鉄遺跡関連地垂井鞠祭りの南宮神社や濃赤坂金生山へも出かけましたが、伊吹の里を歩いたことなし。

11月12日 伊吹山麓に加療のため帰ったという仲間の顔を見がてら、金太郎伝承の里を歩いてきました。



図1 滋賀県の製鉄遺跡の分布

古代たたらの故郷 湖北 伊吹山麓 たたらを眠る長氏の里に「金太郎」伝承を訪ねる

【伊吹山西麓 米原市伊吹の里 & 桃太郎伝承の里 walk】Album 抜粋

琵琶湖湖岸 長浜と伊吹山の間に東西に長く寝そべる臥竜山の山裾

金太郎伝承が眠る長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)



2018.11.12. 小一条番所から眺める臥竜山の山並みとその上に浮かぶ伊吹山
長浜市西黒田地区は古くから密接に結びついていると感じる風景

寝そべる臥竜山の丘の山裾 長浜市金太郎伝承の里



2018.11.12. 伊吹の里 野一色周辺からながめる雄大な伊吹山 12:28

米原市 伊吹の里の背後にそびえる雄大な伊吹山



1. 伊吹山の山裾 伊吹の里の秋景色 伊吹山から流れ出る水の分水が伊吹の里の豊かさの象徴か?
2. 臥竜山が寝そべる山裾 桃太郎の伝承地 長浜市西黒田の里の秋景色
3. 桃太郎の伝承地長浜市西黒田の里から眺める 臥竜山 & 伊吹山遠望の秋景色



桃太郎伝承の残る古代たたらの故郷 湖北 伊吹山麓 伊吹の里 & 長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)のwalkの詳細は スライド動画 & photo album に記録収蔵していますので、こちらも合わせご覧ください。

【保存 File: 古代たたらを眠る長氏の里に「金太郎」伝承 walk】

■ 和鉄の道 URL: <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1812ibuki00.htm>

◎ スライド動画 URL: <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1812ibuki.mp4>

◎ photo album URL: <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1812ibukiphoto.pdf>

1. 伊吹山の山懐 伊吹の里の秋景色 伊吹山から流れ出る水の分水が伊吹の里の豊かさの象徴か？



2. 臥竜山が寝そべる山裾 桃太郎の伝承地 長浜市西黒田の里の秋景色



3. 桃太郎の伝承地長浜市西黒田の里から眺める 臥竜山 & 伊吹山遠望の秋景色





八条町の入口周辺から眺める南北に横たわる臥竜山の丘 2018.11.12. 14:35



2018.11.12. 小一乗道跡から眺める臥竜山の山並みと子の上に広がる伊吹山
長浜西黒田地区は五ヶ所峠の麓にあり、伊吹山麓の秋景色



2018.11.12. 長浜農業高校入口の素晴らしい銀杏並木
あいにく霧雨になりましたが、背後に伊吹山がけぼり、素晴らしい伊吹山麓の秋景色



2018.11.12. 素晴らしい伊吹山麓の秋景色 長浜農業高校 銀杏並木

4. 夕闇迫る中 坂田駅への道を急ぎつつ 今日一日の伊吹walk をふりかえる

金太郎伝承の地 西黒田地区では東西に長く寝そべった臥竜山の丘の向こうにいつも大きな伊吹山が頭をのぞかせ、この地区が伊吹山と一体であること再認識しました。

残念ながら、里にはもう金太郎やたたら(たたら)の痕跡はほとんど見つけれませんが、いくつもの枝尾根を張り出し、東西に長く寝そべる臥竜山の丘の山裾に縫って続く古道をつないで、古い家並みが点々と続く。どこにでもあるのかもしれませんが、紅葉した森に接し、ゆったりと時間が流れる集落の中。

そのいくつかには今も古い古墳があり、丘には小さな社。家並みと接して続く

丘の向こう伊吹の里にどっしりと座る伊吹山が頭をのぞかせ、里を見下ろしている。

日本の原風景そのものの古道が金太郎伝承・たたら(たたら)の郷 Iron Road の痕跡



また、今まで湖岸の長浜の街に何度も訪れたことがありましたが、あのどでかい伊吹山を眺めるのは米原を過ぎて 東へ東海道新幹線や東海道線の車窓から…。 湖岸に沿って北陸線で北の長浜へ行くときにはほとんど意識していませんでした。 長浜の街と伊吹山山麓伊吹の里がこんなに近く、また密接に結びつき、近江の国のたたら(たたら)の郷として伊吹山を感じたのも初めてでした。

鉄の王国「近江」には随分あるいたつもりでいましたが、空白になっていた伊吹山山麓まったく抱いていた印象と違うのにびっくりです。

鉄の山伊吹山 湖北伊吹に和鉄伝承と重なる金太郎伝承 半信半疑でしたが、伝承地の長浜西黒田地区が伊吹の里・伊吹山とつながっていることや、そして、この臥竜山の寝そべる西黒田地区が鉄を背景に北陸から近江に勢力を伸ばし大和政権に大きな影響力を持った息長氏(息長氏)の存在についても ちょっとわかったような気がしました。

一番後になりましたが、伊吹山山麓の伊吹の里 もっと山深い山郷と思っていましたが、湖岸長浜とも密接につながった豊かな田園地であることにびっくり。そして、広い田園地が続くその中央にいきなりどっしりと構えて里を見下ろす伊吹山。とにかくどでかい。圧倒される大きさ。しばらくは声も出ず、見入っていました。また、伊吹の里の豊かさの源に豊富な伊吹山のみずの分水網にあることも 初めて知りました。書き忘れましたが、西黒田長浜農業高校の銀杏並木とその上に浮かぶ伊吹山。今年一番の秋景色でした。湖北を支えるどでかい山「伊吹山」その大きさに圧倒された walk。花の伊吹山にもう一つ古代の和鉄の興味の加わった今回の walk 暖かくなったら、伊吹の里からゆっくり伊吹山の頂上へ歩こうと思っています。加療中の仲間の元気な姿も見られたし、うれしい伊吹の里 walk になりました。なお、今回の walk 伊吹の里についた途端に いつも記録代わりに手にするデジカメが故障で全く使えず。 やむなくスマホをデジカメ代わりにするとともに、walking の行程記録の随処に Google MAP や Google Earth Street View の画像を使わせていただきました。いちおうその旨入れています、多少違和感のある画像ありますが、お許しください。

2018.11.12. 夕闇近く 金太郎の里を振り返りつつ
Mutsu Nakanishi



参考補足 1. 伊吹山への登山口 JR 東海道線 近江長岡駅 でも今長浜からゆくのも便利に

今回 長浜市と米原市とが南北に細長く伸びる臥竜山の丘を境に並び相互に結びついていることを記しました。
しかし、伊吹山といえば、伊吹山の南側にある近江長岡駅を出発点。したがって、東海道線が走る南側からすると長浜は随分北に見え、その伊吹の里へも近江長岡駅からゆくものと思っていました。

近年関西の交通網が再整備され、関西圏から長浜へ新快速が走るようになり、むしろ湖北長浜から伊吹の里経由で登山口へ行く道、ならびに臥竜山をトンネルで抜けて伊吹の里へ入る道が随分便利になっている。

かつては どうか どちらも湖北 古代は息長氏が勢力を張る同じ湖北の生活圏。時代とともに感じ方が、随分変化している。でも 今も近江長岡駅に降り立って眺める伊吹山のどでかさは変わらず。やっぱり伊吹山に登るには近江長岡駅から伊吹の里に入るのが一番か…



2018. 11. 12. 10:51 近江長岡駅着
駅の背後に山な復いかぶさるがごとく伊吹山が見える

参考補足 2. 金太郎伝承と息長氏のたたら伝承が重なる長浜西黒田地区

坂田の金時の伝承地 臥竜山西麓 長浜市旧坂田郡黒田地区

- 臥竜山 琵琶湖と伊吹山の間を南北に竜が伏せたように横たわる里山
この西麓の山際に沿って金太郎伝承の西黒田地区の集落がある。
- 熊岡山(熊岡神社)・足柄山(列見寺山)・舟崎鯉が池
南北に横たわる臥竜山の麓 金太郎の子供のころの遊び場
- 長浜市布施町 出生地
- 長浜市小一条番所 乳母に金時が育てられた場所
- たたら関連の地名が残る布施町・小一条町
「たたれん」「穴伏」「金神山」「焼尾」などたたら関連地名が残る



謎の多い古代豪族 息長氏 と 坂田の金時の伝承地 概略 長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道、北陸道の要衝であり、琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓 近江国坂田郡息吹(現、坂田郡米原町と長浜市の一部)を本拠とした古代 鉄の王国近江の大豪族。

古事記ほかの伝承によれば、古墳時代の王族 意富富杼(おほほど)王の後裔と伝えられ、息長帯日売命(神功皇后)や息長真若中比売(応神天皇妃)など息長の氏名を冠する皇妃を輩出し、大王家との姻戚関係を伝える。



息長の名義発祥の由来は、

新羅から渡来した天之日矛(あめのひぼこ)の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓

荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。
この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると考えられる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。

また、伊吹の里の北には 敏達天皇の皇后「息長広姫」の御陵息長陵とされる村居田古墳。金太郎の里臥竜山の山裾 長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかいくつかの古墳があり、この地に勢力のあった生息長氏との関係が見られる。

金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、息長氏の本拠地 伊吹山西麓 臥竜山の山裾ですくすくと育ったと伝えている。



■ 参考・一部転載させていただいた資料 ■

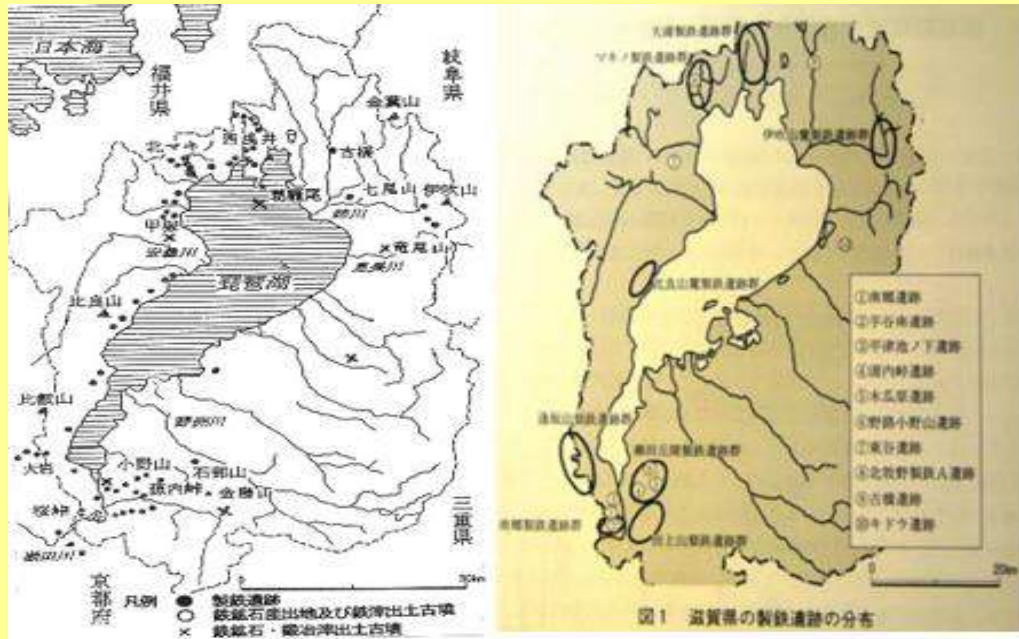
1. 滋賀銀行 季刊情報文化誌「湖」2015 秋号 “金太郎” 坂田の金時は旧坂田郡の人だった?
https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf
2. 金太郎伝承の地の黒田 長浜市西黒田 街づくりセンター ホームページ
<http://nishikuroda.sakura.ne.jp/>
3. 金太郎伝承の地の黒田 金太郎の里マップ
<http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html>
4. Google Earth & Google map street view 米原市 & 長浜市
5. 酒呑童子の出生伝説
<https://nohmask21.com/oni/densetsu02.html> ほか
6. 桃太郎伝説の吉備路 walk?? 鬼ノ城を訪ねる 2010.1.15. ほか
<http://www.infokkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1002kinojyo00.htm>

和鉄の道・iron road by Mutsu Nakanishi

1. 湖北 伊吹山山麓 近江国 旧坂田郡長浜市西黒田 に残る金太郎伝承 2018.6.1.
<http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1806nagahamakintarou.pdf>
2. 鬼の住む山 大江山 鬼の伝説 に「Iron Road」のロマンをかきたてて
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb06.pdf>
3. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron10.pdf>
4. 旧暦霜月8日(11月8日) 金山まつり・鞆まつり 伊吹山 美濃垂井 南宮大社の鞆祭りほか
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron14.pdf>
5. 日本各地に残る和鉄の道の風景
<http://www.infokkna.com/ironroad/tatara/tatara05.pdf>
6. 和鉄の道からみた日本誕生前夜の北近江・若狭
<http://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/2011iron/11iron17.pdf>
7. 瀬田丘陵 源内峠製鉄遺跡 野路小野山製鉄遺跡を訪ねて
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf>

【参考】「近江の鉄」 和鉄の道掲載リスト by Mutsu Nakanishi

古代鉄の先進地 近江の鉄 掲載記事を書き出してみました



1. 大和政権を支えた近江国の鉄 瀬田丘陵 の製鉄地帯 2002.3.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb13.pdf>
2. 2005 年青春キップの旅 古代鉄の足跡を訪ねて
p12-p30 木ノ本 古橋製鉄遺跡 & 北マキノ 2005.8.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron13.pdf>
3. 比叡山延暦寺造営を支えた生産工房 大津市堅田 上仰木製鉄遺跡 2006.2.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron04.pdf>
4. 瀬田丘陵 源内峠製鉄遺跡 野路小野山製鉄遺跡を訪ねて 2007.7.
古代官営大製鉄コンビナートに発展させ た近江の製鉄技術
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf>
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若 狭・北近江の「若狭街道」 2008.9.1.
大陸・朝鮮半島の鉄を求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて
分水嶺「水坂峠」の両側 北近江「高島 熊野本」と若狭「上中町熊 川宿&脇袋」
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/8iron09.pdf>
6. 湖南 南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて 袴腰山を巡る 2009.7.30.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron09.pdf>
7. 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる 2011.8.30.
脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学? & 若狭小浜港・遠敷の里 Walk
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron10.pdf>
8. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼンスライド 2011.12.1.
「和鉄の道 Iron Road」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代-
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron17.pdf>
9. 琵琶湖交通・北陸や東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結接点 近江の彦根 2016.12..
纏向遺跡に匹敵する大型建造物のある鉄器物流を担う拠点都市集落が出土
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/16iron16.pdf>



2018. 11. 12. 伊吹の里 野一色周辺からながめる雄大な伊吹山



謎の多い古代豪族 息長氏と坂田の金時の伝承地 概略 長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道、北陸道の要衝であり、琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓 近江国坂田郡息吹(現、坂田郡米原町と長浜市の一部)を本拠とした古代 鉄の王国近江の大豪族。古事記ほかの伝承によれば、古墳時代の王族 息意富(おほい)王の後裔と伝えられ、息長帝(神功皇后)や息長尊(神武天皇)など息長の氏名を冠する皇妃を輩出し、大王家との姻戚関係を伝える。

息長の名義発祥の由来は、新羅から渡来した天之日矛(あめのひばこ)の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓 荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると考えられる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。

また、伊吹の里の北には、敏達天皇の皇后「息長姫」の御陵息長陵とされる村居田古墳。金太郎の里臥竜山の山麓 長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかいくつかの古墳があり、ここに勢力のあった息長氏との関係が見られる。

金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、息長氏の本拠地 伊吹山西麓 臥竜山の山麓ですくすく育ったと伝えている。



湖岸沿いに広がる長浜市。当初「なんで湖岸の長浜に伊吹山のたたら関連地の金太郎伝承があるのだ」と疑問を抱いていました。
「長浜市の東の境界は臥竜山「横山」の丘が南北に走り、その後に伊吹山がそびえる米原市伊吹の里。湖岸の長浜からは南北に長く延びる臥竜山(横山)の丘が壁になって、どこか伊吹山の山体はよく見えない。この丘周辺が金太郎伝承の西黒田。丘を乗り越えればすぐ正面に伊吹山が姿を現す。東西を山に挟まれた田園が伊吹の里である。」

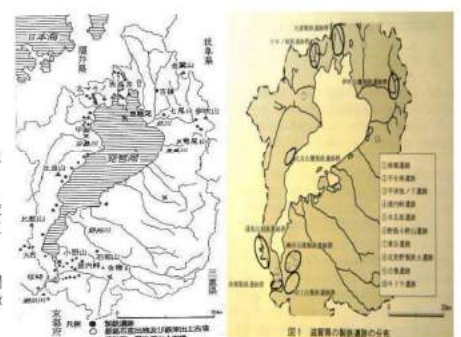


古代の鉄の王国「近江」

琵琶湖取り囲む山々の山麓は たたら製鉄を育んだ和鉄の故郷

琵琶湖周辺の山々には鉄鉱石があり、その山麓には点々と古代から製鉄遺跡。そして湖北から北陸にかけては古代の鉄の豪族息長氏の本拠地である。そんな湖北の和鉄の故郷 伊吹山山麓 旧坂田郡西黒田は「坂田の金時・金太郎」の伝承地。たたらで生まれ、周辺の山で育った金太郎。その象徴が赤い肌・緋・丸金の腰掛けだ。金太郎の伝承地はいくつかあるが、「坂田」の地での伝承を持つのはこの伊吹山麓のみという。金太郎伝承が伊吹山山麓のたたらにありと初めて知りました。

久しぶりに知る各地に残る「金太郎」「赤い肌」「緋」はかの昔話とたたら関係。湖北へは何度も出かけ、伊吹山登山や湖岸沿いの長浜へは何度も行ったことあり、また関ヶ原を東に越えた美濃側の製鉄遺跡関連地 垂井藩祭りの南宮神社や美濃赤坂金生山へも出かけましたが、伊吹の里を歩いたことなし。11月12日 伊吹山麓に帰ったという仲間を訪ねて、金太郎伝承の里を歩いてきました。



伊吹山の山麓 長浜市西黒田に残る坂田の金時伝承

滋賀銀行 季刊情報文化誌「湖」2015秋号「金太郎」坂田の金時は旧坂田郡の人だった? https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

平安時代中期 近江国坂田郡布施町(現長浜市西黒田布施町)に本拠地を持つ古代豪族息長氏一族に生まれた。布施町に隣り合う小一帯に「番所・ばんふところ」の地名が残るが、これは「乳母が懐」と言われ、この辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。今もお地蔵さんが祀られ、授乳地蔵として信仰を集めている。金太郎は熊岡山(熊岡神社)や足柄山(列見寺)で熊と相撲を取ったり、舟の鯉ヶ池で鯉に乗り、海童ぶりを発揮。青年になるとこの地で盛んだった鍛冶の仕事に就いた。金太郎のトレードマーク「赤い肌」「緋」「金の腰の腰掛け」は鍛冶の作業を表すという。そして、20歳となった金太郎に転機が訪れる。天延4年(976)、旧暦3月21日、上総守の任期を終え、黒田海道を上京中の源頼光が足柄山にさしかかったとき、金太郎は頼光の目にとり込まれた。上京後、金太郎は名を坂田金時と改め、頼光のもと様々な手柄をたててゆく。正暦5年(994)、金太郎が住んでいた村の人々を苦しめている伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)をついに退治し、渡辺綱・土部季武、碓井貞光とともに頼光の四天王と称されるまでになる。(大江山・伊吹山の鬼退治伝承の一つ)

なお、坂田の金時の鬼退治伝承の多くは、大江山伝説の形をとっているが、伊吹山山麓では、上記のごとく伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)退治の形で伝承されている。また、この布施町から小一帯にかけては「タタレン」「穴伏」「金神山」「焼堀」といったたたら製鉄に関連した地名が残り、鎌倉時代 布施町鍛冶屋場住司には名刺を打つ鍛冶屋が軒を連ねていたという。



20018. 11. 12. 東海道線 米原市鯉ヶ井周辺の車窓からながめる伊吹山



2018.11.12.10:51 近江長岡駅
駅の背後に大きな山があるがこく伊吹山が見える



2018.11.12.10:51 近江長岡駅
駅の背後に大きな山があるがこく伊吹山が見える
視野の中に入りきらぬトカイ山
今日はささげるものがない田園が広がる伊吹の里の向こうに
伊吹山全体をのぞけるのが楽しみ



本当に大きな山である 今日伊吹の里から田園の向こうに
大きく広がる伊吹山全体をまじがでみるのが楽しみ



近江長岡駅前にある米原観光マップ
シーズン外れとあって ひっそりとしたもの 伊吹山の山裾に広がる
伊吹の里を巡って長浜へ抜けるバスがあり、それに乗って伊吹の里
療養中の仲間を見舞って、午後 walkingをはじめる。



2018.11.12. 伊吹の田園からながめる伊吹山
バスが近江長岡駅前から街中を抜け、田園に入ると車窓からは雄大な伊吹山が眺められ
ました。手前には収穫を終わった広大な田園地帯がひろがり、伊吹山のめづりが
感じられる素晴らしい景色です。 午後の里歩きが楽しみ



伊吹・金太郎の伝承地walkのスタートは伊吹の里の真ん中 伊吹高校
前のバス停から。 12:15
すぐ横が市場の十字路。西へ行けば、臥竜山をとんねるでぬけて、金
太郎の伝承地長浜の西黒田地区。右行けば南東の近江長岡へ、また南
へまっすぐ下れば鶴ヶ井。北へ取ると田園地帯の中に小さな集落が点
在する伊吹山の山裾。その山裾を伊吹山から流れ出た北へ流川が方向
を北にとって流れる伊吹山麓。
まずは、田園が広がる伊吹の里の背後にそびえたつ伊吹山の姿をしつ
かり眼に収め、伊吹山麓から引き返して、長浜市と米原市の位置関係。 みんな湖北なん
だとびっくりしました。長浜の街の重要性も再認識。
ちうつ、問題発生。カメラが故障。撮影がストップ。
仕方なくスマホで撮影。詳細はあとでgoogle earthのストリートビュー
で保管することにしたので、記録もこの写真が混在しています。



1. 伊吹の里 walk 市場から北の伊吹山の山裾 井之口・伊吹へ

伊吹高校前すぐ横の市場十字路から県道19号を北へ
伊吹山の山裾 地図でみた井之口集落へ向かう
はやく 伊吹山全体が見える田園地帯へと 2018.11.12.12:15

まもなく、東の関ヶ原から伊吹の里を西抜けて湖北を結ぶ
国道365線野一色の集落の佇まいが
奥に伊吹山の姿が見えるが全体は見えない
正面の野一色の集落を抜ければ田園地帯に出る。
Google photo 市場十字路から北へ県道19号を伊吹山へ



伊吹の里の豊さの象徴か？伊吹山の水と里全体に張り巡らされた分水





坂田の金時の伝承地 臥竜山西麓 長浜市旧坂田郡黒田地区

- 臥竜山 琵琶湖と伊吹山の間に南北に竜が伏せたように横たわる里山
この西麓の山際に沿って金太郎伝承の西黒田地区の集落がある。
- 熊岡山(熊岡神社)・足柄山(列見寺山)・舟崎鯉が池
南北に横たわる臥竜山の麓 金太郎の子供のころの遊び場
- 長浜市布施町 出生地
- 長浜市小一条番所 乳母に金時が育てられた場所
- たたら関連の地名が残る布施町・小一条町
「たたらん」「穴伏」「金神山」「焼尾」などたたら関連地名が残る









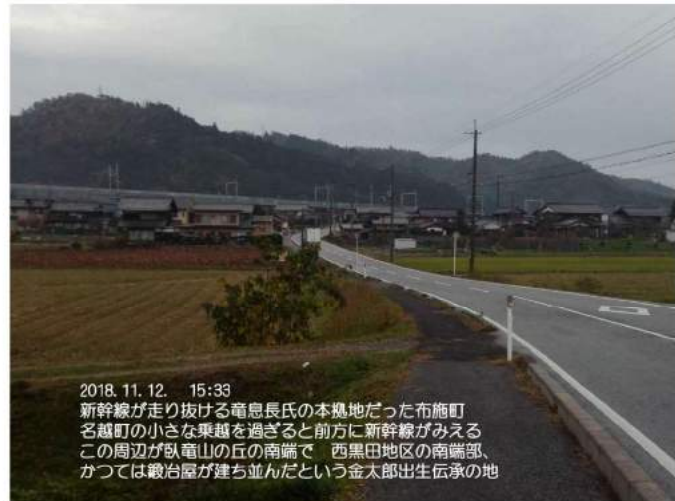
2018. 11. 12. 素晴らしい伊吹山麓の秋景色 長浜農芸高校銀杏並木



2018. 11. 12. 長浜農芸高校 銀杏並木を前に 金太郎が熊と遊んだという山??



2018. 11. 12. 張り出した小さな丘の乗越 名越町



2018. 11. 12. 15:33
新幹線が走り抜ける竜息長氏の本拠地だった布施町
名越町の小さな乗越を過ぎると前方に新幹線がみえる
この周辺が臥竜山の丘の南端で 西黒田地区の南端部、
かつては戦治屋が建ち並んだという金太郎出生伝承の地



2018. 11. 12. 臥竜山の丘を背に広がる息長氏の本拠地
金太郎出生の地 布施町 鎌倉時代には戦治屋が建ち並んだという



2018. 11. 12. 布施町の入口にある布施古墳



2018. 11. 12. 臥竜山の丘の端 北陸道の高架が見える家並み
布施町の隣の小一条町



布施町の隣 小一条町 Map



2018. 11. 12. 国道からはなれ、小一条の家並にはいる



小一条町の家並の出口には金太郎「飛び出し注意」
そういえば 西黒田地区のあちこちで 見かけました



小一条の街並みから国道に出ると、今歩いてきた臥竜山沿いの西黒田地区そしてその背後に伊吹山が一望。いよいよ 西黒田地区walkもおわり。
この北陸道の高架のすぐ横の山裾に
小一条番所「金太郎が乳母に育てられた所」の案内板がありました。



高架のすぐ横の山裾に「小一条番所 金太郎が母に育てられた所」の案内板
2018. 11. 12. 16:00 金太郎伝承の地 walkが終了



2018. 11. 12. 小一条番所から眺める臥竜山の山並みとその上に見る伊吹山



Walkを終わって、帰路につく。
広い国道バスか何かあるだろうと思いましたが、歩くしか手段なし。
米原駅はまだまだ遠いし、最短は北陸線坂田駅へ行くのが一番だと聞く。そうか。ここは旧坂田郡 坂田の金時の里
日が傾いてきましたが、街中を約1時間ぶらぶら歩いて坂田駅へ。
すぐ湖畔と思っていましたが、これもはずれ。意外でした。
でも、北陸道をくぐり、新幹線がもうスピードで駆け抜けてゆく。
北陸と湖北を結ぶ幹線国道8号線 長浜・米原は交通の要衝。
次々と新しい街が生まれているのを知りました。
もう真っ暗になりかけた5時過ぎ
坂田駅にたどり着き、新快速に飛び乗って 神戸に帰りました。
時代が大きく動いていると知った坂田の街でもありました。



Google photo 小一条町から 新幹線をくぐり、国道243号線を
ひたすら湖畔近く西の坂田駅へ



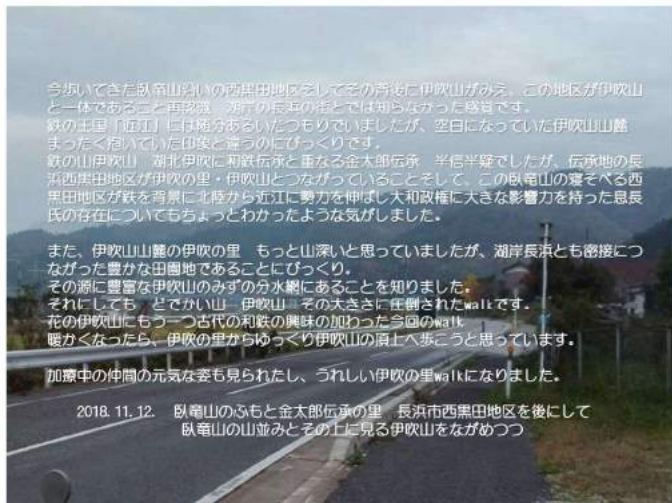




小一条の家並みから国道に出ると、
今歩いてきた臥竜山沿いの西黒田地区そしてその背後に伊吹山が一望。
いよいよ 西黒田地区walkもおわり。



2018. 11. 12 小一条藩所から眺める臥竜山の山並みとその上に浮かぶ伊吹山
長浜市西黒田地区は古くから密接に結びついていると感じる風景



今歩いてきた臥竜山沿いの西黒田地区をその背後に伊吹山が一望。この地区が伊吹山と一体であること、再訪の際、伊吹山の山並みとは知らなかった感です。
鉄の王国「近江」には随分あるいたつもりでしたが、空になった伊吹山山麓まったく抱いていた印象と違ふのにびっくりです。
鉄の山伊吹山 湖北伊吹に別荘伝承と重なる金太郎伝承 半信半疑でしたが、伝承地の長浜市西黒田地区が伊吹の里・伊吹山とつながっていることとして、この臥竜山の寝そべる西黒田地区が鉄を背景に北陸から近江に勢力を伸ばした大和政権に大きな影響力を持った息長氏の存在についてもちょっとわかったような気がしました。

また、伊吹山山麓の伊吹の里 もっと山深いと思っていましたが、湖岸長浜とも密接につながった豊かな田園地であることにびっくり。
その源に豊富な伊吹山のみずの分水嶺にあることを知りました。
それにしても どでかい山 伊吹山。その大きさに圧倒されたwalkです。
花の伊吹山にも一つ古代の利鉄の興味の加わった今回のwalk
暖かくなったら、伊吹の里からゆっくり伊吹山の頂上へ歩こうと思っています。

加藤中の仲間の元氣な姿も見られ、うれしい伊吹の里walkになりました。

2018. 11. 12 臥竜山のふもとと金太郎伝承の里 長浜市西黒田地区を後にして
臥竜山の山並みとその上に見る伊吹山をながめつつ

【参考】「近江の鉄」和鉄の道掲載リスト by Mutsu Nakanishi

- 古代鉄の先進地 近江の鉄 掲載記事を書き出してみました
1. 大和政権を支えた近江国の鉄 瀬田丘陵の製鉄地帯 2002. 3.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb13.pdf>
 2. 2005年青春キップの旅 古代鉄の足跡を訪ねて p12-p30 2005. 8.
木ノ本 古橋製鉄遺跡 & 北マキノ
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron13.pdf>
 3. 比叡山延暦寺遺跡を支えた生産工房 大津市堅田 上岡木製鉄遺跡 2006. 2.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron04.pdf>
 4. 瀬田丘陵 源内峠製鉄遺跡 野路小野山製鉄遺跡を訪ねて 2007. 7.
古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/Tiron03.pdf>
 5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」 2008. 9. 1.
大陸・朝鮮半島の鉄を求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて
分水嶺「水坂峠」の両側 北近江「高島 熊野本」と若狭「上中町熊 川宿&脇袋」
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/8iron09.pdf>
 6. 湖南 南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて 梧園山を巡る 2009. 7. 30.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron09.pdf>
 7. 古墳時代 朝鮮半島との交流の玄関口「若狭」を再度訪ねる 2011. 8. 30.
脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷の里 Walk
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron10.pdf>
 8. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼン slides 2011. 12. 1.
「和鉄の道Iron Road」から見た日本誕生前後-北近江・若狭が輝いた時代-
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron17.pdf>
 9. 琵琶湖交通・北陸や東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結节点 近江の彦根 2016. 12. 1.
縦向道路に匹敵する大型建造物のある鉄器物流を担う拠点都市集落が出土
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/16iron16.pdf>



概略 謎の多い古代豪族 息長氏と坂田の金時の伝承地 長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道、北陸道の要衝であり、琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓 近江国坂田郡息吹(現、坂田郡米原町と長浜市の一部)を本拠とした古代 鉄の王国近江の大豪族。
古事記ほかの伝承によれば、古墳時代の王族 意富宮(おほほ)王の後裔と伝えられ、息長帯日命(神功皇后)や息長良若中比売(応神天皇妃)など 息長の氏名を冠する皇妃を輩出し、大王家との姻戚関係を伝える。

息長の名義の由来は、新羅から渡来した天之日矛(あめのひばこ)の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。
この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると思われる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。
また、伊吹の里の北には 歌連天皇の皇后「息長広姫」の御陵息長陵とされる村居古墳、金太郎の里臥竜山の山麓 長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかにいくつかの古墳があり、この地に勢力のあった生息長氏との関係が見られる。
金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、息長氏の本地地 伊吹山西麓 臥竜山の山裾ですくすくと育ったと伝えている。



丘を奥に越えればすぐ正面に伊吹山が姿を現す。
東西を山に挟まれ丘陵地に広がる井吹の里である。

